授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2346 号

Overcoming the Japanese “Vaccine Gap”: An Analysis of Medical Leaders’　Witness

(日本のワクチンギャップ解消のために：医療リーダーたちの見解の検証)

富坂　美織（とみさか　みおり）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、戦後の日本の予防接種政策における転換点を探り、ワクチンギャップを引き起こした予防接種政策の問題点を同定し、予防接種の安全性に関する国民の意識の政策への影響力を評価するため、日本の予防接種政策を担う政治・政策・臨床・一般の４つの分野における医療リーダーたちの予防接種政策に関する見解を体系的に分析した画期的な内容である。日本の終戦後の予防接種政策では、社会状況の変化により、予防接種の使命が変化しており、中でも国民の安全性に対する疑問が大きく政策を左右してきたことがわかる。最近では、高齢者における感染症の流行や、世界的な感染症流行により、予防接種に対する国民の理解は深まったものの、現在でも少数の副反応によって国民が安全性に対し、懐疑的となり、一部の予防接種率の低下が起きている。この研究では、戦後の日本の予防接種政策における転換点を探り、ワクチンギャップを引き起こした予防接種政策の問題点を同定するために、日本の予防接種政策を担う政治・政策・臨床・一般の４つの分野における医療リーダーたちの見解を体系的に分析している点が新鮮で、ワクチンギャップの分析においては、政治・政策・臨床・一般の 4 グループが自分以外のグループをワクチンギャップの原因と名指ししている点、及び面接者の主張を新しい予防接種を導入する 5 つのステップに当てはめて、個別モデルを作成している点が興味深い。さらにこのステークホルダー分析によって明らかとなった問題を見事に克服した日本の近年のポリオワクチン政策の転換例を挙げており、１地方自治体のリーダーシップが、メディアの注目と国民の理解を集めた結果、政治レイヤーが政策、一般レイヤーに作用し、日本全体が迅速に保守的な政策から、科学的根拠に基づいた政策に変換されたという新たな経験を掘り下げている点で、今後の日本のワクチン政策の指標となり、さらには、発展途上国における今後の予防接種政策を考えるうえでも大変参考になる内容であり、日本のワクチンギャップの原因を、政策立案者から、民間人までステークホルダーを網羅した上で明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。